

【認知症対応型共同生活介護用】

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月29日

【評価実施概要】

事業所番号	0770401453		
法人名	医療法人 翔洋会		
事業所名	グループホーム 泉なごみの家		
所在地	福島県いわき市泉町滝尻字六枚内49番地3 (電話)0246-75-2881		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.10.24	評価確定日	H20.11.25

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年 7月 23日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	14人	常勤14人, 非常勤人, 常勤換算14人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,300円		

(4) 利用者の概要(11月4日現在)

利用者人数	18名	男性	4名	女性	14名
要介護1	5名	要介護2	4名		
要介護3	6名	要介護4	3名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 86.1歳	最低	65歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 翔洋会 磐城中央病院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、JR常磐線泉駅から小名浜方面に向かって徒歩約15分の所であり、比較的静かな住宅地に位置している。建物は既存の家を改装したものであるが、居室や共有空間も明るくまた整理されている。開設8年目を迎え、その間ホーム長も変わることなく、職員の離職率も低い。職員と利用者のコミュニケーションも良く、利用者は穏やかな表情で過ごしている。事業所は「本人の思いや本当の願いをケアに結びつける努力」を大切にしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で改善事項となった運営に関する家族等の意見の反映、災害対策について、ホーム長が中心となって改善に向けて取り組んだ。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については、ホーム長と職員が全員で取り組み、常に職員全員で話し合いながら、サービスの改善に向けた意識の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	運営推進会議のメンバーは、地域包括支援センター、地区代表者、長寿会、家族代表、管理者、事務局職員で構成されている。概ね2ヶ月に1回開催されており、出席者からの提案やホーム側からの報告に対する意見等の会議内容を事業所の運営に反映させている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族が訪れた際には、利用者の様子を詳しく報告し、家族からは意見や要望が出しやすいように配慮している。また家族からの希望、要望があれば、毎朝のミーティング、会議で検討し、運営に反映させるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、管理者が町内会の年間行事予定を把握し、お祭り、清掃、忘年会等に参加をしている。買い物、散歩の時も挨拶を交わすなど、事業所職員も地域との関わりを大切にしている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に現在のホーム長と職員で作上げた理念に、「地域密着型」の趣旨を加え再度、職員全員で作上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者、職員、来客者の目に触れやすいよう玄関、食堂等に掲示している。また、職員は毎朝申し送りのあと全員で復唱するとともに、理念が書いてあるものを各自携帯している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、地区の夏祭りや忘年会、泉ふるさと祭りに全員で参加している。年2回のいわき市民総ぐるみの地域清掃にも利用者数名が参加した。その時々を地域住民と交流する良い機会と捉え交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び外部評価の意義を職員は充分理解している。外部評価を受ける事で日頃の業務をふりかえり、サービスを充実させるための見直しや課題の検討を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は概ね2ヶ月1度開催されており、会議録には議題や発言の記録が整理されている。出席者からの提案やホーム側からの報告に対する意見等があり、会議は効果的に機能している。</p>		
6	9				
<b>4.理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時には利用者の状況を詳しく報告し、また状態に変化があった場合は、そのつど電話で連絡しきめ細かな対応を行っている。また家族には定期的にグループホーム「なごみ便り」を送付している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族来訪時には、気軽に声をかけてもらう雰囲気作りを心がけており、玄関にはご意見箱を設置している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>馴染みの関係を大切にしており、昨年は職員の異動もなく、離職者もなかった。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画作成担当者が、県グループホーム連絡協議会研修委員を務めている。研修会のテーマ、職員の習熟度、経験等を考慮しながら積極的に、外部研修会に参加させている。外部の研修会に参加した場合は内部研修会で出席者がその報告を行っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会を通じ交流を図っている。家族の悩みや認知症高齢者への対応の方法、地域の課題等、他事業所の意見等を参考にサービスに生かしている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> <b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)	/	/	/
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩として利用者を尊敬し、利用者と一緒に食事を摂ったり、畑仕事や、洗濯物を干したりたんだりしている。利用者自身の経験に耳を傾け、その生き方を学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の部屋を訪問し会話する時間を設ける様心がけている。利用者一人ひとりを理解するよう努め、悩みや希望を把握している。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者と職員の時間を大切にすることで、利用者の思いや意見を聞き、また家族の要望については面会時や行事の参加時に話を聞き記録を行っている。それをもとに職員全体で話し合い、介護計画を作っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月に1回の見直しが行われ、変化が生じた場合は随時見直しを行っている。連絡、報告、相談を大切に、利用者が「何時にどのような行動をしたのか」を細かく観察し、記録する事で、現状を把握し、それを担当者がまとめ、職員全員で意見交換をし介護計画を作成している。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診の際は、家族に送迎や付き添いの協力をお願いしている。協力医は事業所の運営母体である病院となっており、付き添いは職員が行っている。受診の結果については、電話等で家族へ報告を行っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者と家族、主治医、職員で話し合い、事業所で対応できる事と出来ない事を利用前や利用開始時に管理者から伝え、利用者と家族から同意を得ている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者に対し敬意、尊敬の念を持って接しており、言葉使いにも十分配慮している。入居申込書、重要事項説明書等の個人のプライバシーに関わる書類は管理者室で保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所としての1日流れはあるが、それを優先させる事はない。買い物や散歩等その時々を利用者のペースに合わせて支援している。利用者同士で話しをしている場面では、雰囲気を感じ職員は見守る事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しく食事ができるよう雰囲気配慮するとともに、調理や片付けを一緒に行っている。塩分に注意し、暖かいものは暖かく、冷たいものは冷たくといった食事の基本を大切にしている。また、利用者が持ちやすいよう食器にも配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望に応じ対応しており、お湯の温度は季節に応じて変えるなど配慮している。入浴を拒む利用者には、介護者を変更したり時間を変えてみるなど工夫しながら柔軟に対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	事業所の敷地内にある畑で草むしりや収穫をしたり、押し花や習字教室等利用者の得意な分野や趣味を把握し、一人ひとりの力を発揮してもらえるよう役割や場面作り行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	買い物、散歩、外食(レストラン)等、出来るだけ利用者の希望にそった支援に取り組んでおり、外出先でも楽しんでもらえるよう職員が利用者に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が日中は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関に鍵をかけずに職員は見守りで対応している。外出したい利用者へは職員が付き添うようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年4回避難訓練を実施し、夜間時を想定した訓練も行っている。また、地域消防団が、12月から3月迄の夜間に事業所の見回りを実施するなど、地域との協力関係を築いている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量を栄養士と職員がチェックし、利用者一人ひとりの栄養状態を把握している。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の入る居間の窓辺や浴室前の空間にはソファが置かれ、休憩できるようになっている。また食堂ではテレビの音量に配慮し、利用者が落ち着いた雰囲気の中で過ごす事が出来るよう工夫している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物、自宅で使っていた布団、家具等をそのまま持参してもらい、安心して過ごせるよう支援している。		

 は、重点項目。

### 3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム 泉なごみの家  
記入担当者名 高橋 幸子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

#### 評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。